

令和7年度 開新高等学校評価表

1、教育方針

「来て良かった、やって良かった、勤めて良かった、あつて良かった」開新高校

2、本年度の教育重点目標

- 魅力ある学校づくり
- 生徒募集・進路対策強化
- 健全な心身の育成
- 保護者との連携
- 地域連携と自意識向上の取組

大項目	評価項目 小項目	評価の観点 重点目標	課題と評価	今後の改善点
学校経営	学力の充実・わかりやすい授業	・基礎学力充実の意識を高め、毎朝の自学自習や分かりやすい授業を通して、学力の充実を図る ・生徒の個性・特性に応じた指導に努める ・生徒の様々な希望進路に対応できる技能・ポートフォリオの充実	7割を超える生徒が授業内容のほとんどを理解できていると答えているが、わからないところを教師に質問することができていない生徒は半数以下にとどまっている。また、内容についても各教科の専門性を生かした授業や資格取得の推奨が保護者にも伝わっていることがわかる。	授業内容に関する質問の場を設けるためにも、生徒主体となる授業の展開やICTを活用し事務作業を減らすことで生徒との対話に時間を作っていく必要がある。
	ICTを活用した教育の研究・実践	・タブレットを使用した授業方法の習熟・研究 ・ICT機器等を用いた授業方法や教材の研究・蓄積	教員は授業や採点などにICTを活用している意識が低い。その一方生徒たちは授業やレポート提出に活用されていると感じている。	前述したが、ICTを活用し事務作業を減らせるところは減らしていく必要がある。
	時代の流れに即した学校改革	・社会人として必要な知識・責任・モラル等を1年時から段階的に着けていく ・本校で学ぶ意義、生徒一人一人に将来の目標を考えさせること ・安易な退学や進路変更を思いとどまらせ、退学者の減少に繋げていく ・時代の変化に対応した校則の研究 ・ICT機器等を用いた職員の事務作業の負担軽減	教職員の約9割が挨拶や言葉遣いについての指導ができていると答えており、生徒も同じくらいの割合できちんとできていると答えている。服装や頭髪に関しても7.5割の教職員は議論する場があったと答え、7割の生徒も服装や頭髪に関する校則がなぜ必要かを理解しているとの回答であった。ただ、保護者は時代や価値観に応じて校則も変更すべきだという意見が9割近くになっている。 5割の教職員がICT機器の活用で業務が短縮できたと感じていない一方、5割を超える生徒たちは教師との対話の時間が増えたと感じているとのことであった。	頭髪に関しては一部であるが規則に従えない生徒や不満を感じている保護者も存在しているのが現状である。教師側は丁寧な説明を心がけていく一方、時代に応じて校則の見直しをしていく必要性も今後考えていかなければならない。 前述したが、ICTの活用で業務内容を見直しできることは行っていくべき、職員の時間の確保を確保することで余裕を持った教育活動につなげていく必要がある。
	進路指導の徹底	・多種多様な職業科を有する県内唯一の私立高校として、その特性を生かして生徒の希望する進路の実現に努める ・企業見学や外部講師による講演を積極的に行う等、キャリア教育の充実を促し、生徒が早い段階で自らの進路目標を見つける事ができるようにする	7割を超える教職員が専門分野を生かした資格取得の奨励や自分の経験を生かした進路指導ができていると答え、保護者もそのように感じているが、6割に近い生徒が自分が社会に出た将来のイメージができていないとの回答であった。	教員や保護者の大人と子どもである生徒との間で、感じ方の違いが如実に表れている。自分の将来像をしっかり意識できるように、教員間ももちろんであるが、外部講師による講話や職場体験、見学等の機会を増やし、よりイメージしやすい環境を整えていく必要があると思われる。
学力向上	指導力の向上	・教員が自らの資質向上を図り、わかりやすい授業づくりを行うための教材研究や自己研鑽に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導を心掛ける。 ・ICT教育の充実を図り、魅力的授業を展開し、知識・技能の向上に努める。	教材研究や研修への参加など教師としての資質向上に向けて努力した結果、生徒・保護者からの授業に対する熱意について信頼を得たように思える。一方でわからないところを「質問できた」と答える生徒が少なく、教員の「教える努力」が生徒側に繋がっていない点が課題である。	引き続き、教員の資質向上に向けた努力ができる環境を考えて生徒・保護者から高い評価を頂けるようにする。生徒一人ひとりに対して適切な指導ができるよう教員間での連携と保護者とのつながりを今後も継続していけるよう努力をする。
	基礎学力の定着	・朝学習や宿題などを活用し、基礎学力の定着を図るように日々指導する。 ・家庭学習の習慣を身につけるように促す。 ・必要に応じて個別の学習指導や添削を行う。	スタディサプリ導入による朝学習の習慣化が定着しつつあるが、家庭学習の時間ができていないことがわかり、「家庭学習の習慣化」のため宿題の配信や配信後の指導が今後の課題である。	放課後や休み時間における個別指導を高く評価している生徒が多く、教員の強い指導が基礎学力向上に繋がっているため、放課後の課外授業も改善の一つとして取組むことができる。スタディサプリを自宅でも活用して家庭学習の時間を確保するために保護者と連携して配信するだけでなく取り組ませるための指導を考える努力をする。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・心を込めて挨拶のできる生徒を育成する。教師から先ず挨拶を行う ・校内外のルールを守り、服装・頭髪に気を配り、自分らしさを表現できる生徒の育成	生徒の約8割が「基本的な生活習慣が身につけている」と回答しており、多くの生徒が充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で、保護者アンケート項目「学校の教育理念および教育目標に照らして、校則は適切な内容であると思うか」に対しては、約4割の保護者が「そうは思わない」と回答しており、この結果を真摯に受け止め、今後の検討課題として重視すべきであると感じた。	段階的指導の導入により、生徒に対して改めて規範意識を喚起し、ルールを遵守することの重要性を再認識させることができた。頭髪に関しては、社会情勢や時代の変化を踏まえた見直しも検討すべきであるとの意見が一部に見られる。今後、学校全体として共通理解を深め、慎重に議論を重ねていくべき課題である。
	命を尊び、心身共に健康な人材の育成	・交通ルールの遵守、交通モラルの確立を図る ・他者を理解し思いやる心を育てるとともに、自分を高め充実した校内生活を送らせる ・生徒指導について、生徒の権利に配慮し、生徒の内面と向かい合いながら自分を見つめなおす機会を持たせる ・自己管理能力の育成（情報モラルの高揚、貴重品等の管理）	交通ルール等に関する意識および取組状況については、生徒・保護者双方において概ね良好であると判断され、日頃の担任の先生方による指導および注意喚起が行き届いていることがうかがえる。また、情報モラル（SNS利用に関する問題）については、生徒・保護者ともに高い関心と一定の不安を持たれていることが確認された。	命の大切さを生徒達へ伝えるために、教育活動全体の中でこれまで以上に発信していく必要がある。また、SNS問題においても具体的な問題事例をあげながら情報モラルの問題や他者の気持ちを大切にすることを大切にする。
	自主的に行動できる意欲ある生徒の育成	・朝の清掃活動及び校内の美化に積極的に取り組み、施設・設備を大切に扱う心育てる ・地域の清掃活動等を通して奉仕の心を育てる	生徒、保護者の印象が真逆の回答である。部活動生を中心に校外外を問わず積極的に活動がなされている。	ホームページや保護者会などを通じて、清掃活動を行っている様子を発信していくべきである。
進路指導	進路に関する意識の向上	・LHRや総合的な探究の時間の活用および進路講話や各種セミナー等、年度末の校内進路ガイダンスに繋がる計画的な取り組みを行う	教職員による自己評価は87.3%と極めて高く、生徒・保護者からも70%前後と概ね肯定的な評価を得ています。LHR、総合的な探究の時間、進路講話、各種セミナー等の多角的なアプローチは、生徒が将来を主体的に描く「きっかけ作り」として有効に機能していると言えます。一方で、学校での具体的な取り組みが家庭まで十分に浸透しきっていない点が課題として浮き上がっています。	セミナーや講話の様子、生徒による振り返りの一部を、学校ホームページやSNS、PTA広報等を通じて積極的に発信し、家庭との意識共有を図ります。また、各学年で「今、何を考えるべき時期か」という指針をより明確に提示し、生徒自身が成長を実感できる仕組みを強化します。
	進路情報の提供	・学年団と進路指導部および進学室の連携を深め、生徒情報の共有を行う。また、教師用Classroom『進路のお部屋』等の活用による進路情報の共有に努める。生徒・保護者向けには、クロムブックやホームページを活用し進路情報をできる限り迅速に提供する	三者（教職員79.0%、生徒77.5%、保護者72.4%）ともに安定して高い評価となりました。特に生徒の回答からは、校内掲示、資料配布、デジタルツールの活用といった情報伝達インフラが適切に運用されていることが裏付けられています。一方で、情報の「質」や「アクセスのしやすさ」には改善の余地があります。保護者の肯定回答の多くが「（どちらかといえば）そう思う（57.3%）」に留まっていることから、個々のニーズに合わせたきめ細やかな情報提供が期待されています。	全体向けの情報に加え、志望系統別（大学・専門学校・就職等）にターゲットを絞った情報提供を強化します。具体的には、過去の進路実績や合格体験記を随時閲覧できるGoogle Classroomの拡充を検討します。あわせて、教員間での情報共有を徹底し、どのクラスにおいても均質かつ高い情報提供が行われる体制を構築します。
	進路相談の充実と環境整備	・進路指導部および進学室の機能と指導環境の整備を図り、生徒・保護者・教職員の相談に対応できる態勢を整える	教職員や保護者の肯定的な評価が60%であるのに対し、生徒は54%と顕著に低く、温度差が見られます。生徒にとって「真に相談しやすい環境」が整っていたかどうか、喫緊の課題です。	担任による面談に加え、進路指導部と直接相談できる機会の増設や、デジタルツールを活用した匿名性の高い相談フォームの設置を試行します。あわせて、保護者からの相談機会も拡充し、学校と家庭が連携して生徒を支える体制をより強固なものにします。
特別活動	・学校行事の充実	・各行事において、綿密な計画及び準備を行うことで、生徒の良き思い出となるよう努める	生徒・保護者とも概ね良い評価を得ることができた。開新競技大会においては、運営に携わった生徒のおかげで大会委員会がスムーズに進行できた。クラスマッチにおいては、昨年度の反省から競技を変更した。積極的に競技に取り組む姿勢が多く見られた。	会場の使用における注意（ジョギングコースの逆走や立ち止まりなど）を事前にしっかりと徹底するべきだった。一部の競技において競技内容の周知が不足していたので、練習時間を設けるなどの対策が必要と思われる。
	・クラブ活動の充実	・生徒の健全な心身の育成を目指す ・クラブ活動の推進を図る（クラブ加入率7割） ・クラブ活動と学業の両立を図る	各クラブとも限られた時間で意欲的に練習に取り組むことができた。また、勉強との両立も7割程度の生徒が「できた」と回答しており、日ごろから意識をしている生徒が多いことが伺えた。加入率については昨年は45%にとどまった。	新入生向けに各クラブに作成してもらっているクラブ紹介動画があるので、再生回数が増えるように周知徹底することで加入率の向上に努めていきたい。
	・生徒会活動の充実	・校内および校外活動（ボランティア等）を充実させる ・各委員会の活性化を図る	校内ではコンタクト容器やペットボトルキャップ回収、使用済みペンなどのリサイクル活動を中心に行った。また、街頭募金や子ども食堂などの校外ボランティアにも参加したが、ほぼ生徒会のみだった。委員会については一部の委員会しか活動していない状況があった。	全校生徒が集まる機会を利用して、リサイクル活動に関する活動を充実させ、掲示物を作成するなど周知していきたい。委員会には担当者を含め年間を通して活動できるよう計画したい。
安全健康管理	・健康教育の推進	・心身のバランスをとり、健康で衛生的な生活習慣の推進を図る	保健だよりや掲示物等を通して生徒や保護者への情報発信が少なかった。さらに心身の健康のバランスや生活環境の改善についての啓蒙が必要だと感じている	生徒とのコミュニケーションや教職間の情報共有を通して実態把握に努め、心身の健康への関心を高められるよう声かけをしたり情報発信を利用して工夫する
	・教育環境の整備	・学校内外の環境美化の推進と安全な教育環境整備に努め、事故・けがを防止する	施設等の破損被害等も数回発生し、注意喚起をしたがなかなかおさまらない現状もある。	校内外の安全・美化推進に努めるためにも、さらに生徒たちへの美化意識や教育環境の大切さ等、心の育成に努める
	・教育相談	・面接を通して、生徒の実態把握に取り組み、全職員の共通理解を進めると共に、担任や養護教諭と連携を図る。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応する	生徒についての実態把握・共通理解に関しては、担任や保護者、その他職員と常に連携を図り、適切な対応ができた。	カウンセリング利用に関して、さらに保護者への周知を図り、必要とする生徒や保護者が受けやすい体制を作るように努める。また、SWSについても今後、周知してもらうことも必要だと考えている。